

試し読み

知古文庫

当ファイルを許可無く印刷またはインターネットを介して
第三者へ配布することを禁じます。



interview



interview

1 日目



おとうさんに訊いた話。

だいたい、意地張りすぎるんだ。云うことと本音がぜんぜん合っていない。

そりゃあ、娘の私からしてみれば、私が小さかった頃のこととか、それ以前に、私が生まれていなかった頃のこととか、ながいながい歴史があるんでしょよ。だからって、誰からみたって、私たちのことは「おかしい」って思うよ。もっと単純に考えてみて。私たち変な目でみられてるんだから。

おとうさんは云う「だいたい、^{いや}厭なこととか、腹立たしいこととかって、自分の中の問題なんだ。みんなから「変な目でみられてる」と思ってるのも、自分の問題なのさ」

あっさり、私の意見を^{すか}賺す。

おとうさんは云う「友だちの、変わった家族とか、過去にみたことがあるんだろう？ それを「厭だな」って思ったことがあるのさ。敏感になっているだけなんだ。「自分もああだったら厭だな」ってね。そういうのって、実際そんなに「変だ」なんて思われていないことの方が多いんだ。一度、友だちに訊いてごらん」

冗談じゃない。女の子の友だちなんて、あたり障りのないことしか云わないんだから。正面切って、私たちのこと、「変だ」なんて云う訳ないじゃない。それに、^{たと}譬え友だちが思ってなかったとしても、客観的におかしい。絶対。

だいたい、なんで離婚したのよ。隣に住む位なら、一緒の家でもいいじゃない。

おとうさんは云う「そういう問題じゃない。けじめの問題」

ああ、そうですねよ。だったらもうちょっと、遠くに住めばいい。

おとうさんは云う「おかあさんが近くにいた方が、おまえもいいだろう？」

それは、そう。確かにそう。だけど、隣って言うのは違う。私だって、あの時には、たくさん考えたんだから。結局はおとうさんの子になる、って決めた。でも、まさか隣に住むなんて思わないでしょう？

おとうさんは云う「なにかと楽じゃないか。定期的に会いにいくっていったって、すぐに会えるし。養育費だって、手渡しで済む」

だから、そういう問題じゃないんだって。

納得いってないことがあるのよ。そもそも、どうして離れたの？ そりゃあ、喧嘩もしてたし、仲が凄くよかったとは思わない。でも、それは一般的な家族とおなじ位だったと思う。その辺はふつうだったんじゃないかな。

おとうさんは云う「そういうことじゃないん

だよ」

だからって、娘の私にも判るように説明してほしい。理由がとても難しいことで、複雑なことだったとしても、いちおうは納得しないと駄目じゃない。若し、もっと理由がこみあっていて、とか、なんとなくそういう感じだった、とか、子どもの私には云いにくい原因、とか、そういうことがあったとしても、なにかしら理由がほしい。だいたい、私なんて……恋愛もしたことがなければ、男の子のことなんてよく判らないのに。それって、将来に影響がでちゃうでしょう!?

おとうさんは云う「最近離婚なんて、そんなに珍しいことじゃない。そういう自由も認められてるじゃないか。それで、人生が変わってしまったとか、理由にならないことはないかもしれないけど、それでも、環境の所為だ、とか云ってほしくないな」

いい加減なんだから。無責任だ。私が将来離

婚したりしたら、ふたりの所為なんだから。

＊

＊

＊

少し、迷ってることがある。こんな環境だから、私、どっちの家に住んでても、別にかまわないでしょう？ いちおう、私はおとうさんの子、ってことになるんだけど、時にはおかあさんの家にも泊まるし、おかあさんにご飯を食べてもいい。だけど、ちょっと気を遣うんだから。いつもいつも、おかあさんのところに泊まりにいったら、厭な顔するでしょう？ 続けておとうさんとばかり夕飯食べてたら、おかあさん、ちょっと厭みを云う。おとうさんは云う「別に気にすることないよ。どっちも親なんだから」

嘘ばかり。

いちおう、私は子どもなんだから、本当は、3人で一緒に住めたらいいな、って思ってた。りするんだ。

おとうさんは云う「それは無理」
なんで？
おとうさんは云う「とにかく無理」
だから、ちゃんと理由がほしいんだって。私
の判らないことなの？

＊

＊

＊

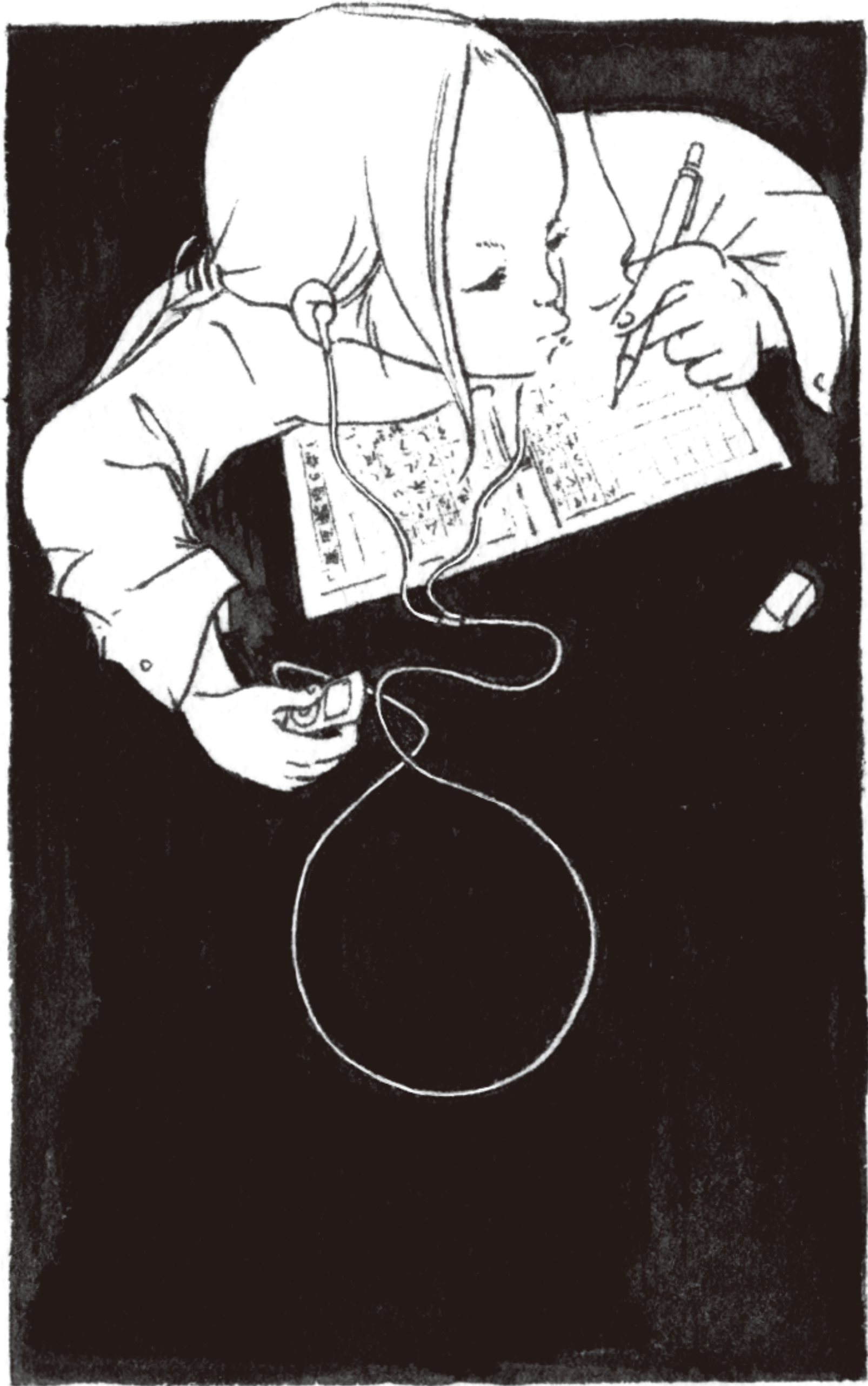
おとうさんって、客観的にみて、まあ、ふつ
うかな。年の割には、清潔感もあるし、太っ
てもいない。性格だって、これは本当はどう
か判らないけど、まあ、ふつうだと思う。
だったら——こぶ付きだけど——まだ再婚は
できると思うんだ。結婚はともかく、恋人の
ひとり位つくってもおかしくないのに。
おとうさんは云う「女性にはこりごりしてる
んだよ。それに、おまえだって、「新しいお
かあさんだよ」とかいうシチュエーションに
なったら厭だろ？」
また嘘ついている。私のことなんて、考えてい

ない癖に。考えてるなら、そもそも離婚なんてしないんだって。

だっておかしいでしょ。離婚して、いちおう家もわかれた（おかあさんが隣に引っ越したただけだけど）。だったら、おかあさんのもの、ちゃんと持っていけばいいじゃない。持っていかなかったなら、処分すべき。おとうさんの家（いちおう、私も）には、今もおかあさんが遣っていたものが残ってる。勿論必要なものは持っていったけど、あたりまえのように残してあるんだ。そんなだから、おかあさんも時々、おとうさんの家まで、自分のものを取りにくる。今でも自分の家みたいに。おとうさん、それを悪くない、って顔でみてる。

おとうさんは云う「離婚したからって、もともと結婚する前からずっと友だちだったんだ。そう考えれば、会っても、なにもおかしくないさ」

複雑そうで複雑じゃないなんて云われても、



判る訳がない。

いちばん変なのは、離婚してからのの方が仲がよさそうだったこと。

おとうさんは云う「それは気の所為」

だってそうみえるもん。確かに私の意見でしかないけど。



おかあさんに訊いた話。

おかあさんって、家事が苦手なんだ。結婚してた時も、あんまりお料理しなかった。おかあさんも働いていて、結構忙しそうだったし、働いてるのが楽しそうだった。だから、家のことに時間を裂かれるより、仕事をがんばっていたみたい。おとうさんは、勿論働いてるし、家事をすることはあまりなかったけど、いざお料理とかすると、とってもうま